サンタクロース、釧路視察!?

釧路湿原・釧路市内上空 目撃相次ぐ

発見された足跡、一昨年と一致

今月下旬以降、釧路市内各地で次々とサンタと思われる謎の人物の目撃が相次いでいることが分かった。釧路湿原内のサテライト展望台では、足跡も発見されたといい、今月中旬から再始動しているサンタ捜索チームは、調査のため釧路入りを果たした。「なぜクリスマス前のこの時期に?」「なぜ、道東の釧路に?」という数々の疑問を抱えながら、その謎に迫る。

24日未明、釧路湿原展望台において、観光客が謎の光る物体を目撃し、サンタ捜索チームに情報を寄せたことで、今事件が明らかになった。連絡を受けた捜索チームは現場に急行。付近を捜索すると、湿原内の西側、遊歩道の中間地点に位置するサテライト展望台で、巨大な足跡を発見した。その大きさは約40㌢。足跡の形状・サイズが、一昨年にさっぽろテレビ塔展望台の屋上で発見された足跡と酷似していたため、専門機関で当時の画像と照合したところ一致した。足跡は、泥が付着していたが、湿原の土と成分が異なることから、泥の一部を持ち帰り、専門機関で分析を進めるという。

サンタ捜索チームによると、釧路湿原より20㌔ほど離れた市内中心部でも、同様の目撃情報が集まっているという。同日の夜には、コーチャンフォー釧路店(釧路市春採7)で、複数の店員や来店客が謎の光を目撃。「UFOの到来か!?」と、一時現場は騒然となったという。また、25日未明には、市内に架かる幣舞橋(ぬさまいばし)のライブカメラにも、謎の光る物体が映っていたという。

今回の事件について同チームでは、「クリスマスではない日に、サンタが姿を見せることは極めて稀(まれ)。おそらく、プレゼントを届けるための下見の意味合いが強いのではないか」と見ており、「下見は、スムーズに良い子の家を訪れるためと考えられる。サンタが今年のクリスマスに再び釧路に現れる可能性も高い」とサンタ出現に期待を寄せる。

サンタ捜索チームは、特捜班「S・A・N・T・A(サンタ/Special Attack National Team for santa)」を含む約30人体制でさらに調査を進める方針だ。

釧路湿原内サテライト展望台の遊歩道で発見された、大きさ約40センチの謎の足跡。　謎の足跡拡大図

道内各地を周遊か

試運転中のレーダーが航跡示す

今回の事件を受け、サンタ捜索チームは、北海道新聞社屋上において試運転中の「新トナカイレーダー」のデータを分析。その結果、目撃情報があった釧路のほかにも北見、旭川、札幌でもトナカイが通過した反応が確認された。レーダーの航跡は24日未明に釧路に突然現れたあと、北見、旭川へと移動。27日未明に札幌市内数カ所で現れたのち28日未明に消息を絶った。これらの航跡は、釧路での目撃情報と一致することから、サンタ捜索チームでは、ほかの地域でも目撃情報がないか調査を進める予定。

今回、試運転された「新トナカイレーダー」は、トナカイの鼻から発せられる特殊波をキャッチして、サンタとトナカイの航跡を明らかにする既存レーダーの改良モデル。先導のトナカイ「ルドルフ」以外のトナカイから発せられる微弱な特殊波にも反応し、8頭それぞれの特殊波をキャッチ。この新レーダーの開発にも携わったアダムスキー博士は「まだ試運転の状況にもかかわらず、トナカイの特殊波をキャッチできたのは非常に大きい」と語る。

だが、今回の事件は「なぜこの4都市をサンタは周遊したのか」という疑問を残した。同チームは、この謎を解くキーワードとして、全国最大規模の大型複合店「コーチャンフォー」を挙げる。「今回レーダーの航跡が示した都市の共通点として、この店の存在が浮かび上がった。レーダーの航跡は、同店発祥の地である釧路に始まり、札幌、旭川、北見など、同店の店舗所在地を巡るように展開している。また、釧路では店舗周辺でサンタと思われる光の目撃情報も寄せられている。これが偶然とは思えない」と、特捜班「S・A・N・T・A(サンタ)」の一員は語る。真相解明に向け、さらなる調査が必要とされる。

北海道新聞社本社屋上で試運転中の新レーダー

道東に捜索拠点を検討

専門家が現地検証を継続

HBCの全面協力で幣舞橋の映像も解析予定

サンタ目撃情報が相次いで寄せられた釧路では、サンタ捜索チームによる捜索が行われている。街頭での聞き込み調査やテレビ局との連携、サンタ専門家らと共同で釧路の文化・歴史資料の分析などが進められている。途中経過ではあるが、チーム専属の専門家は「釧路は霧の街だから、姿を隠しやすい利点がある。釧路湿原など広大なスペースがあるため、ソリの練習を目的に訪れている可能性も否定できない」という見解を示した。

今回のサンタ登場について、釧路市民は好意的だ。聞き込みによると「今年初の目撃が釧路でうれしい」「せっかくサンタさんが釧路に来てくれたので、クリスマスに人気のチキンもいいけど、釧路名物のザンギもぜひ食べてもらいたい」といった声が多く聞かれた。

地元・釧路は歓迎ムード

また、捜索チームは「サンタは道東に注目し、今年の活動の足掛かりにしようとしているのでは」として、幣舞橋付近にライブカメラを設置する検討に入った。ほかにも釧路湿原展望台、釧路市動物園や、コーチャンフォー釧路店近くにある春採湖などにミニトナカイレーダーを設置する予定だ。同レーダーは、従来レーダーよりも受信範囲が狭いものの、高い感度で特殊波をキャッチできるよう設計されており、道東地区での成果が期待されている。また、テレビ局とも提携し、HBCの全面協力により局が保有する情報カメラ映像を捜索資料として提供してもらう予定だ。

どうしん夢プロジェクト 広告企画

試運転中の「新トナカイレーダー」が示したサンタの航跡

コーチャンフォー拠点?

建物デザインに親近感か

サンタが親近感?コーチャンフォー店内

サンタ捜索チームは26日、コーチャンフォー釧路店で再び現場検証を行った。

同チームによると、今回の捜索では、特にサンタの痕跡につながる証拠は発見できなかったが、再度、サンタが同店で目撃される可能性は高いという。

「サンタが同店に立ち寄る理由の一つに、店舗デザインが考えられる。同店は、サンタの本場ヨーロッパを感じさせる外観になっている。現在、店内ではクリスマス装飾にもなっているため、サンタが親近感を抱いたのかもしれない」と推測。「また、各店舗ともにトナカイを休ませるのに十分な広さの屋根があり、カフェも併設されている。サンタがひと休みしたくて同店に立ち寄ったと考えられる」と発表した。

そして、「同店が取り扱っている商品は、本、音楽、雑貨など大変バラエティー豊か。サンタがプレゼントの下見で同店に来たのかもしれない。また、コーチャンフォーという店名は、4頭立ての馬車を意味しており、4頭の馬が馬車を引く様子が店のロゴマークになっている。サンタが、トナカイのアシスタントとして馬を探しているところ、同店のロゴが目に入り、馬がいると勘違いしたのかもしれない」と続けた。同チームは、今後もコーチャンフォーに注目し、サンタの動向を追う見通しだ。

サンタアイテムの秘密を公開!

MONO・SANTA

ブーツ

世界各国を飛び回るサンタの足元を支えるブーツ。いろいろな家の煙突に入ったり、長時間の飛行にも耐えられるよう、耐久性があり、温かい革素材でできている。これまでの目撃情報により、サイズは約40センチといわれる。

企画制作/北海道新聞社広告局

この広告企画はお子さまと楽しんでいただくため、夢のある構成となっています。フィクションを多く含みますがご理解、ご了承願います。

次回は12月上旬朝刊予定

クリスマス連載コラム X Santa(クロス・サンタ)

家族で過ごす“ノンフィクション”の幸福時間

今年のクリスマス、あなたは誰と過ごす予定だろうか。日本では、恋人や仲間と過ごすイメージがすっかり定着しているが、欧米においてクリスマス期間は休暇となり、家族と過ごすことが一般的だ。もともとキリスト教の祭日で、年に一度の大切なお祝いの日と位置づけられているクリスマス。国によっても異なるが、クリスマス・イブは家族と一緒に夕食を取り、子どもたちはツリーにかけられたプレゼントをもらう。翌日のクリスマス当日は、朝から教会に行ってミサに参加後、家に戻って再び家族とゆっくり過ごすのが一般的だ。

こうした欧米の風習にならい、日本においても、クリスマスを「家族の絆を深める機会」として捉えてみてはいかがだろう。例えば、クリスマスに何が食べたいか、どんなプレゼントをサンタにお願いしたいかなど、家族で話をしてみる。特別な会話じゃなくても十分だ。子どもたちに、大人のそれぞれから、クリスマスの思い出を話すのもいい。昔の話は子どもたちには新鮮に聞こえ、クリスマスをより印象深いものにしてくれるはずだ。

また、古今東西、クリスマスに関する本や音楽、映画などの名作は数多くある。例えば、ディケンズの代表作「クリスマス・キャロル」、山下達郎の名曲「クリスマス・イブ」、ミュージカルアニメの傑作「ナイトメアー・ビフォア・クリスマス」など。これらを家族で楽しむというのもお薦めだ。一つの娯楽を家族で共有することは、何にも代えがたい経験。その娯楽が「フィクション」だったとしても、その時間は紛れもない「ノンフィクション」となって、家族の幸せな思い出になるに違いない。

(C) 北海道新聞社 無断転載、複製及び頒布は禁止します。